地質ニュース654号，40－43頁，2009年2月
Chishitsu News no.654, p.40－43, February, 2009

ひとはくが実施した「地質の日」イベント

先　山　　徹[1)]

1. はじめに

兵庫県立人と自然の博物館（ひとはく）では，年間に300以上の様々な形でのセミナーを実施し，10～20回の臨時展示を実施している．さらに，2006年に兵庫県丹波市に分布する前期白亜系の篠山層群から恐竜化石が発見され，それ以来，多くの活動がこの恐竜を中心に展開されるようになっている．また，地質の日がある5月の連休前後は，もともとイベントの多い時期でもある．そこで，新たに地質の日イベントとして事業を立ち上げるのではなく，計画中のイベントのうち4月下旬から5月中旬にかけて実施する地学系のセミナーや恐竜関連の展示・イベントを「地質の日協賛事業」として位置づけ，セミナーガイドに付記した．以下に，それらの概要を示す．

第1表　地質の日協賛セミナーの一覧.

日　時	題　目	講　師	参加者
5月5日	丹波の恐竜化石第二次発掘報告会	三枝春生	60名
5月6日	化石のレプリカをつくろう	松原尚志	15名
5月10日	多紀アルプス自然探訪	小林文夫 高橋　晃 布施静香	中止
5月11日	春の石めぐりハイキング―二上山―	先山　徹 加藤茂弘	36名

2. セミナー・観察会

セミナー・観察会としては「丹波の恐竜化石第二次発掘報告会」「化石のレプリカをつくろう」「春の石め

第1図　セミナー「化石のレプリカをつくろう」実施のようす.

1）兵庫県立人と自然の博物館
669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目

キーワード：地質の日，人と自然の博物館，恐竜，展示，イベント，セミナー

第2図　春の石めぐりハイキング．當麻寺での石垣の観察．

ぐりハイキング−二上山−」を実施した（第1表）．このほか，地質の日当日にあたる5月10日には篠山市での観察会を予定していたが，雨のために中止となった．

（1）丹波の恐竜化石第2次発掘報告会

「丹波の恐竜化石第2次発掘報告会」では，2006年度から始められた丹波市での恐竜化石発掘に関連して，2008年1月〜3月に実施された発掘の成果とその意義を担当研究員が解説した．定員100名に対して参加者は60名だったが，当館で実施しているセミナーの参加者数は一般に20〜30名であることと比較すると，格段に多かった．参加者の内訳は小学生7名，高校生3名，大人50名で，圧倒的に大人が多かった．これまでも，恐竜に関してはセミナーや展示を実施してきているが，いずれの場合も子供より大人の参加者のほうが多かった．

（2）化石のレプリカをつくろう

「化石のレプリカをつくろう」では材料と場所の都合により，定員を12名に限定したが，実際には2倍以上の応募者があり，抽選により15名の参加となった（第1図）．内訳は小学生7名，大人8名で，親子での参加が中心であった．この講座は毎年実施しているが，毎年2倍〜3倍の応募者があり，人気が高いものの一つであるが，素材となる標本の数と場所の関係から，人数制限をせざるを得ないのが残念である．

（3）春の石めぐりハイキング

石めぐりハイキングは年2回実施しているが，そのうち「春の石めぐりハイキング」を地質の日イベントと位置付けて実施した．二上山（奈良県葛城市〜香芝市）の中新世火山岩類のサヌカイトとガーネットを採集し，基盤の領家花崗岩類を観察したのであるが，露頭で観察した岩石を寺院の石垣で確認したり（第2図），普段気がつかない足元の石ころにガーネットが含まれていることを知るなど，有意義だったのではないかと思われる．参加者は大人29名，小学生6名，高校生1名の計36名であった．

3. 展示・イベント

（1）丹波恐竜第2次発掘報告展

展示系のイベントとしては，4月20日から5月末まで実施した「丹波恐竜第2次発掘報告展」を地質の日イベントとして位置付けた．これは前年度に引き続き，1月〜3月に実施した発掘調査で得られた化石の一部とパネルを展示したものである．また第1次発掘で得られたブロックのクリーニングを行い，得られた産状のレプリカを展示した．この展示の初日の4月20日は，新しい施設「恐竜ラボ」のオープン日でもあり，オープ

第3図　ひとはく恐竜ラボ.

第4図
丹波竜フェスティバルでのNPO法人西日本自然史系博物館ネットワークによる展示.

ニングセレモニーを実施した.「恐竜ラボ」というのは，主に丹波市で発掘された恐竜化石のクリーニングをする施設であるが，来館者はガラス越しに作業の様子を観察することができ，小規模な展示や解説などもできるようにした施設である(第3図).

(2) 丹波竜フェスティバル2008

5月3日～5日には，丹波市において「丹波竜フェスティバル」を実施した．フェスティバルは，人と自然の博物館と丹波市および丹波県民局の三者で構成する実行委員会形式で進めた．内容は，展示と地元グループによる出展を基本とし，5月4日には，「恐竜化石を活かしたまちづくり」と題したシンポジウムを開催した.

展示は人と自然の博物館による「恐竜発掘報告展」のほか，NPO法人西日本自然史系博物館ネットワークの協力を得て「丹波竜と過去からのメッセージ展」(第4図)を開催し，徳島県立博物館，和歌山県立自然博

第5図　丹波竜フェスティバルでの出店．手前がきしわだ自然友の会による化石レプリカ作り．

物館，大阪市立自然史博物館，きしわだ自然資料館，富山市科学博物館，島根県立三瓶自然館から出展していただいた．開催中は人と自然の博物館および三瓶自然館の館員による解説ツアーがあり，延べ386名が参加した．また，きしわだ自然友の会の皆さんによる化石レプリカ作りが3日間にわたって実施され，大盛況であった（第5図）．フェスティバル全体では，のべ4,339名の参加があり，現地の不便さを考えると，予想以上の盛況だったといえる．

4．おわりに

前述のように，人と自然の博物館は2006年度以来，丹波市での恐竜発掘を進めているが，その現場は篠山川河床であり，発掘調査が可能なのは水量の少ない冬期のみである．そのため，1月～3月に発掘を行い，5月の連休ごろに地元や県民への成果報告のイベントを開くというサイクルが出来上がっている．地質の日がある5月上旬はまさにその報告時期にあたり，テーマの主体は地質図より恐竜およびそれに関連したものとならざるを得ない．この状況はおそらく来年度以降も続く．

今年度の地質の日イベント実施に際しては，「地質の日」という語が一般に周知されていないこと，博物館として「地質の日」のアピール度が弱かったこともあり，「恐竜」の影に隠れてしまった感がある．今年度を見る限り，イベントそのものの盛り上がりに対して，「地質の日」としての盛り上がりは弱かった．しかしながら，もともと地質という語が地味であり，それだけで大きな盛り上がりを見せるのは困難であると考えられる．今後，地学関係で注目されている事柄や集客力のあるイベントをこの時期に集中させ，折にふれ「地質の日」の存在を地道にアピールし続けていくことが重要である．

地質という語が一般に与える印象は，あまり楽しげなものではなく，どちらかというと地味で暗い印象を与える．今後の地質の日のイベントとしては，より多くの人が参加して楽しめるものや，地質に興味の無い人たちが遊びながら地質に触れられるようなものを集中させることで「地質」という語を知ってもらい，「地質は楽しい」という印象を植え付けていきたい．

SAKIYAMA Tohru (2009)：Geology Day events produced by the Museum of Nature and Human Activities, Hyogo.

＜受付：2008年11月17日＞